

GA-C1007UN

GA-C1007UN-D

ユーザーズマニュアル

改版 1001
12MJ-C1007UN-1001R

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,
G.B.T. Technology Trading GmbH
Address: Bülenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany
Declare that the product
Product Type: Motherboard
Product Name: GA-C1007UN
GA-C1007UN-D

conforms with the essential requirements of the following directives:

2004/108/EC EMC Directive:

<input checked="" type="checkbox"/>	Conduction & Radiated Emissions:	EN55022:2006+A1:2007
<input checked="" type="checkbox"/>	Immunity:	EN50524:1998+A1:2001+A2:2003
<input checked="" type="checkbox"/>	Power-line harmonics:	EN61000-3-2:2006
<input checked="" type="checkbox"/>	Power-line flicker:	EN61000-3-3:2008

2006/95/EC LVD Directive

<input checked="" type="checkbox"/>	Safety:	EN60950-1:2006+A11:2009
-------------------------------------	---------	-------------------------

2011/65/EU RoHS Directive

<input checked="" type="checkbox"/>	Restriction of use of certain substances in electronic equipment:	This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive.
-------------------------------------	---	--

CE marking



(EC conformity marking)

Signature: Timmy Huang

(Stamp)

Date: Dec. 3. 2012

Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-C1007UN
GA-C1007UN-D

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109
(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any inference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Dec. 3, 2012

著作権

© 2013 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。

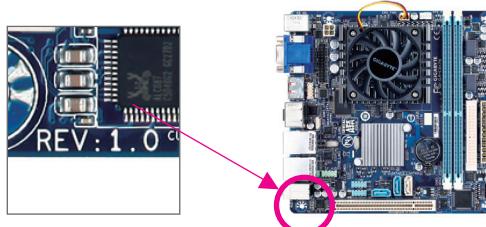
このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

- 本製品を最大限に活用できるように、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。
- 製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.com>

マザーボードリビジョンの確認

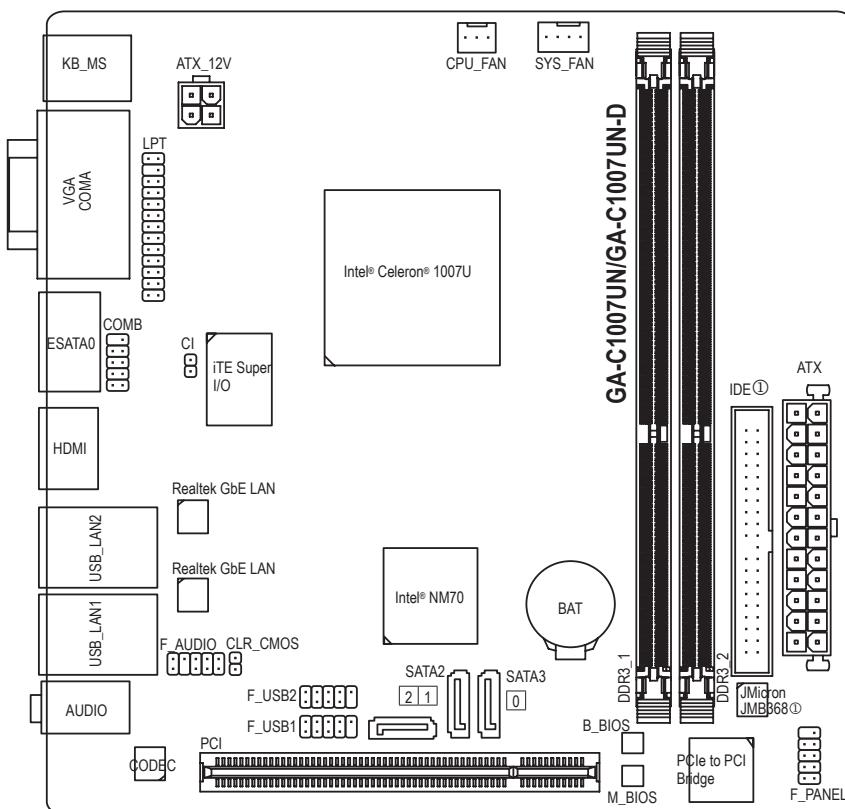
マザーボードのリビジョン番号は「REV: XX」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報を探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。
例：



目次

GA-C1007UN/GA-C1007UN-D マザーボードのレイアウト	4
GA-C1007UN/GA-C1007UN-D マザーボードブロック図	5
第 1 章 ハードウェアの取り付け	6
1-1 取り付け手順	6
1-2 製品の仕様	7
1-3 メモリの取り付け	9
1-4 背面パネルのコネクター	9
1-5 内部コネクター	11
第 2 章 BIOS セットアップ	17
2-1 起動画面	17
2-2 M.I.T.	18
2-3 System (システム)	20
2-4 BIOS Features (BIOS の機能)	21
2-5 Peripherals (周辺機器)	24
2-6 Power Management (電力管理)	26
2-7 Save & Exit (保存して終了)	27
第 3 章 ドライバのインストール	28
規制声明	29
連絡先	32

GA-C1007UN/GA-C1007UN-D マザーボードのレイアウト



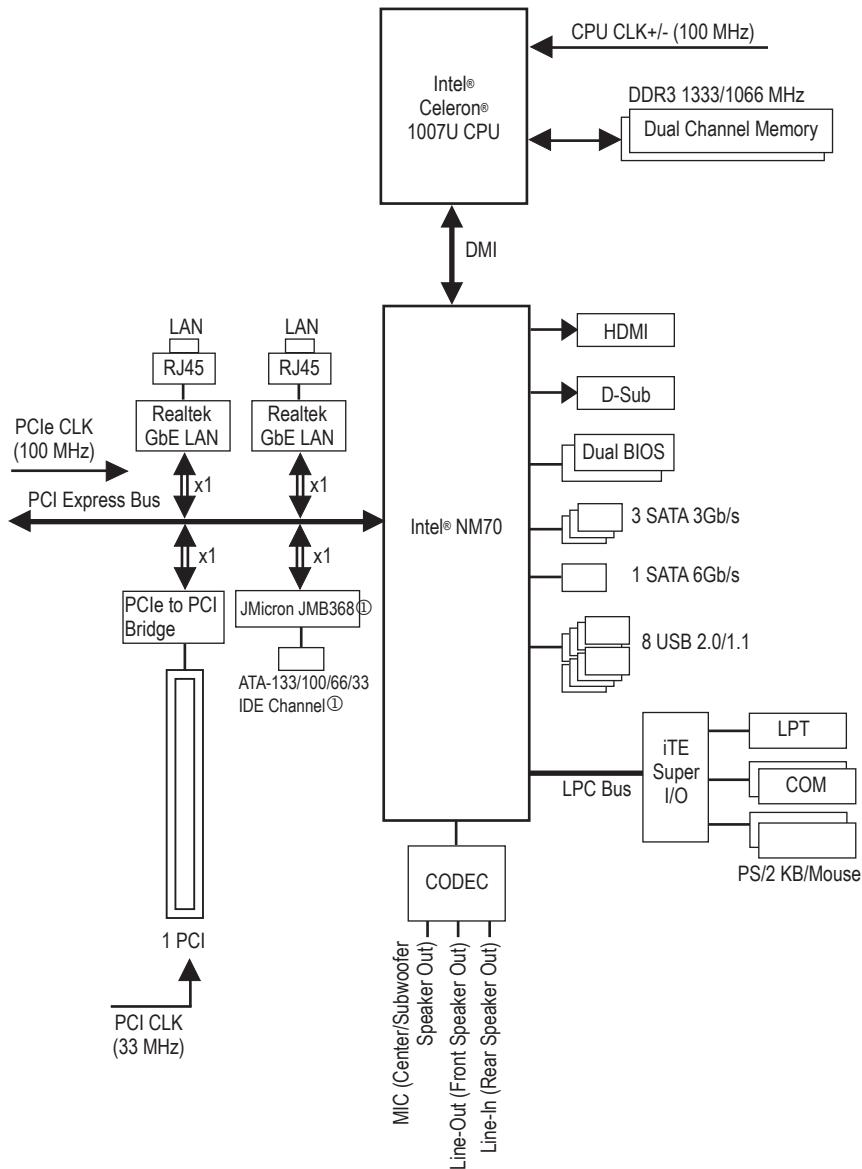
ボックスの内容

- GA-C1007UNまたはGA-C1007UN-Dマザーボード
- マザーボードドライバディスク
- ユーザーズマニュアル
- IDE ケーブル (x1) ①
- SATA 6Gb/sケーブル (x2)
- I/O シールド

上記、ボックスの内容は参考用となります。実際の同梱物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。

① GA-C1007UNのみ。

GA-C1007UN/GA-C1007UN-D マザーボードブロック図



製品の情報/制限の詳細は、"1-2 製品の仕様" を参照してください。

① GA-C1007UNのみ。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、シャーシがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードのS/N(シリアル番号)ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクターに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクターには触れないでください。
- マザーボード、CPUまたはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電(ESD)リストラップを着用することをお勧めします。ESDリストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクターが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

 CPU	<ul style="list-style-type: none">◆ Intel® デュアルコア Celeron® 1007U プロセッサを内蔵 (1.5 GHz)<ul style="list-style-type: none">* CPU/チップセット用ヒートシンク/ファンは取り外さないで下さい。マザーボードの故障の原因になることがあります。◆ L3キャッシュサイズ 2MB
 チップセット	<ul style="list-style-type: none">◆ Intel® NM70 チップセット
 メモリ	<ul style="list-style-type: none">◆ 最大 16 GB のシステムメモリをサポートする 1.5V DDR3 DIMM ソケット (x2)<ul style="list-style-type: none">* Windows 32ビットオペレーティングシステムの制限のため、4 GB以上の物理メモリを取り付けた場合、表示される実際のメモリサイズは取り付けた物理メモリのサイズより小さくなります。◆ デュアルチャンネルメモリ対応◆ DDR3 1333/1066 MHz メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
 オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none">◆ 統合グラフィックスプロセッサ:<ul style="list-style-type: none">- D-Subポート (x1)- HDMIポート (x1)、1920x1200の最大解像度をサポートします。<ul style="list-style-type: none">* HDMIバージョン1.4をサポート。- 最大1GBまでのメモリをシェア可能
 オーディオ	<ul style="list-style-type: none">◆ Realtek ALC887 コーデック◆ ハイディフィニションオーディオ◆ 2/4/5.1/7.1 チャンネル<ul style="list-style-type: none">* 7.1チャンネルオーディオを有効にするには、HDフロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。
 LAN	<ul style="list-style-type: none">◆ Realtek GbE LAN チップ (x2) (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロット	<ul style="list-style-type: none">◆ PCI スロット (x1)
 ストレージインターフェイス	<ul style="list-style-type: none">◆ チップセット:<ul style="list-style-type: none">- 最大 1つのSATA 6Gb/s デバイスをサポートする 1 x SATA 6Gb/s コネクター (SATA3 0)- 最大 2つのSATA 3Gb/s デバイスをサポートする 2 x SATA 3Gb/s コネクター (SATA2 1~2)- 最大 1つのSATA 3Gb/s デバイスをサポートする背面パネルの1 x eSATA 3Gb/sコネクター◆ JMicron JMB368 チップ:①<ul style="list-style-type: none">- ATA-133/100/66/33 および 2つのIDE デバイスをサポートする IDE コネクター (x1)①
 USB	<ul style="list-style-type: none">◆ チップセット:<ul style="list-style-type: none">- 最大8のUSB 2.0/1.1ポート (背面パネルに4つのポート、内部USBヘッダーを通して4ポートが使用可能)

① GA-C1007UNのみ。

 内部コネクター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクター (x1) ◆ 4 ピン ATX 12V 電源コネクター (x1) ◆ IDE コネクター (x1)① ◆ SATA 6Gb/s コネクター (x1) ◆ SATA 3Gb/s コネクター (x2) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ パラレルポートヘッダ (x1) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ CMOSクリアジャンパ (x1) ◆ シャーシ侵入ヘッダ (x1)
 背面パネルのコネクター	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2 キーボードポート (x1) ◆ PS/2 マウスポート (x1) ◆ D-Subポート (x1) ◆ シリアルポート (x1) ◆ HDMIポート (x1) ◆ USB 2.0/1.1ポート (x4) ◆ eSATA 3Gb/s コネクター (x1) ◆ RJ-45ポート (x2) ◆ オーディオジャック (x3) (ラインイン/ラインアウト/マイク)
 I/O コントローラー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ iTE I/O コントローラーチップ
 ハードウェアモニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ システム電圧の検出 ◆ CPU/システム温度検出 ◆ CPU/システムファン速度検出 ◆ システムファン速度制御 <ul style="list-style-type: none"> * システムファン速度コントロール機能がサポートについては、取り付けたシステムクーラーによって異なります。
 BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 32 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AMI EFI BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.6, ACPI 2.0a
 独自機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ @BIOS のサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress Install のサポート ◆ Xpress Recovery2 のサポート ◆ EasyTune 6 のサポート <ul style="list-style-type: none"> * EasyTune 6 の使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。 ◆ Smart Recovery 2 のサポート ◆ Auto Green のサポート ◆ ON/OFF Charge のサポート
 バンドルされたソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Intel® Smart Connect Technology

① GA-C1007UNのみ。

	オペレーティングシステム	◆ Microsoft Windows 8/7/XP のサポート
	フォーム ファクタ	◆ Mini-iTXフォームファクタ、17.0cm x 17.0cm

- * GIGABYTE は、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。
- * GIGABYTE の Web サイトにある **Support & Downloads\Utility** ページにアクセスし、「独自機能」と「バンドルされたソフトウェア」の欄にリストされたソフトウェアがサポートするオペレーティングシステムをご確認ください。

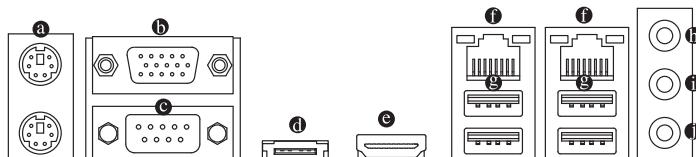
1-3 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

1-4 背面パネルのコネクター



a PS/2キーボード/マウスポート

PS/2 マウスを上部ポート(緑)に、PS/2 キーボードを下部ポート(紫)に接続します。

b D-Sub ポート

D-Sub ポートは 15 ピン D-Sub コネクターをサポートします。D-Sub 接続をサポートするモニタをこのポートに接続してください。

c シリアルポート

シリアルポートを使ってマウス、モデムまたはその他の周辺機器などのデバイスを接続します。

d eSATA 3Gb/s ポート

eSATA 3Gb/s ポートは SATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準と互換性があります。

e HDMI ポート

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は、非圧縮音声/動画信号の伝送が可能な全デジタルオーディオ/ビデオインターフェイスです。HDMI ポートは HDCPに対応し、ドルビー True HD および DTS HD マスター オーディオ形式をサポートしています。最大 192KHz/24 ビットの 8 チャンネル LPCM オーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMI をサポートするモニタに接続します。サポートする最大解像度は 1920 x 1200 ですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



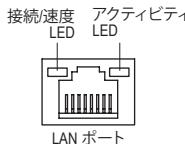
HDMI 機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器を HDMI に設定してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。)

オンボードグラフィックスによるデュアルディスプレイ構成:

このマザーボードには、2つのビデオ出力ポートが装備されています:D-Sub と HDMI。デュアルモニタ設定はオペレーティングシステム環境でのみサポートされ、BIOSセットアップまたはPOSTプロセスの間はサポートされません。

① RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を説明しています。



接続/速度 LED:

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED:

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

② USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

① ラインイン(青)

デフォルトのラインアウトジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

② ラインアウト(緑)

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックは 4/5.1/7.1 チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

③ マイクイン(ピンク)

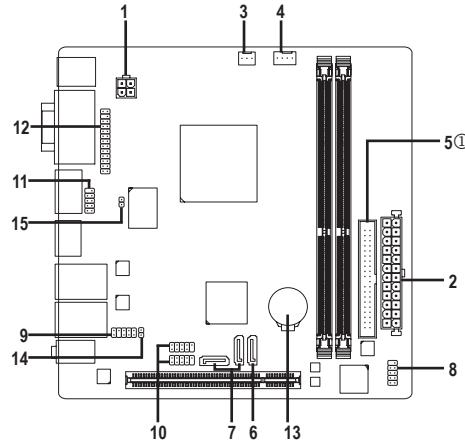
デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。



7.1 チャンネルオーディオを有効にするには、HD フロントパネルオーディオモジュールを使用して、オーディオドライバを通してマルチチャンネルオーディオ機能を有効にする必要があります。

- ⚠ • 背面パネルコネクターに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ⚠ • ケーブルを取り外す際は、コネクターから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクター内部でショートする原因となるので、横に振り動かさないでください。

1-5 内部コネクター



1) ATX_12V	9) F_AUDIO
2) ATX	10) F_USB1/2
3) CPU_FAN	11) COMB
4) SYS_FAN	12) LPT
5) IDE①	13) BAT
6) SATA3 0	14) CLR_CMOS
7) SATA2 1/2	15) CI
8) F_PANEL	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

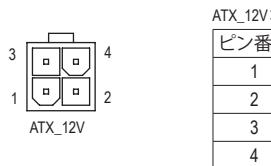
- まず、デバイスが接続するコネクターに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクターにしっかりと接続されていることを確認します。

① GA-C1007UNのみ。

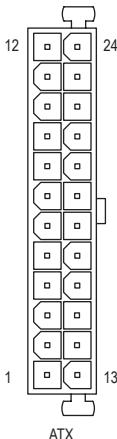
1/2) ATX_12V/ATX (2x2 12V 電源コネクターと 2x12 メイン電源コネクター)

電源コネクターを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクターを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクターは、正しい向きでしか取り付けができるないように設計されておりまます。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクターに接続します。

12V 電源コネクターは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクターが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。



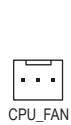
ATX_12V:	
ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V



ATX:			
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフトオン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN (ファンヘッダ)

マザーボードには、3 ピン CPU ファンヘッダ (CPU_FAN) と 4 ピンシステムファンヘッダ (SYS_FAN) が搭載されています。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクターワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、シャーシ内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知



SYS_FAN:

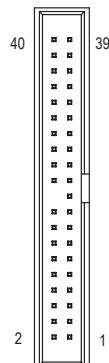
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

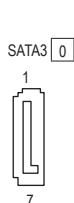
5) IDE (IDE コネクター)①

IDE コネクターは、ハードドライブや光ドライブなど最大2つのIDEデバイスをサポートします。IDEケーブルを接続する前に、コネクターに絶対に確実な溝を探します。2つのIDEデバイスを接続する場合、ジャンパとケーブル配線をIDEの役割に従って設定してください(たとえば、マスタまたはスレーブ)。(IDEデバイスのマスタ/スレーブ設定を実行する詳細については、デバイスマーカーの提供する使用説明書をお読みください。)



6) SATA3 0 (SATA 6Gb/s コネクター、Intel NM70チップセット制御)

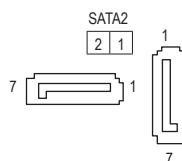
SATAコネクターはSATA 6Gb/s 標準に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクターは、単一の SATA デバイスをサポートします。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

7) SATA2 1/2 (SATA 3Gb/sコネクター、Intel NM70チップセット制御)

SATAコネクターはSATA 3Gb/s に準拠し、SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクターは、単一の SATA デバイスをサポートします。

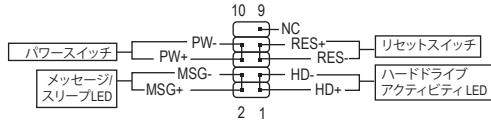


ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

① GA-C1007UNのみ。

8) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

電源スイッチ、リセットスイッチおよびシステム・ステータス・インジケーターを下記のピン割り当てに従ってこのヘッダに接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。



• MSG (メッセージ/スリープLED):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケーターに接続します。システムが作動しているとき、LEDはオンになります。システムがS3/S4スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき(S5)、LEDはオフになります。

• PW (パワースイッチ):

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケーターに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます(詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「電力管理」を参照してください)。

• HD (ハードドライブアクティビティLED):

シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティLEDに接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LEDはオンになります。

• RES (リセットスイッチ):

シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

• NC:

接続なし。



前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、ハードドライブアクティビティLEDなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

9) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクターのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクターとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。

HD 前面パネルオーディオの場合: AC'97 前面パネルオーディオの場合:



ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	GND
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	GND

ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC パワー
4	NC
5	ラインアウト (右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト (左)
10	NC



- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準で HD オーディオをサポートしています。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、單一コネクターの代わりに各ワイヤのコネクターを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

10) F_USB1/2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	電源 (5V)	6	USB DY+
2	電源 (5V)	7	GND
3	USB DX-	8	GND
4	USB DY-	9	ピンなし
5	USB DX+	10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1 ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

11) COMB (シリアルポートヘッダ)

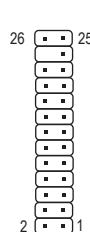
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	NDCC-	6	NDSR-
2	NSIN	7	NRTS-
3	NSOUT	8	NCTS-
4	NDTR-	9	NRI-
5	GND	10	ピンなし

12) LPT (パラレルポートヘッダ)

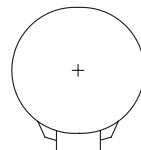
LPTヘッダは、オプションのLPTポートケーブルによって1つのパラレルポートを利用できます。オプションのLPTポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	STB-	14	GND
2	AFD-	15	PD6
3	PD0	16	GND
4	ERR-	17	PD7
5	PD1	18	GND
6	INIT-	19	ACK-
7	PD2	20	GND
8	SLIN-	21	BUSY
9	PD3	22	GND
10	GND	23	PE
11	PD4	24	ピンなし
12	GND	25	SLCT
13	PD5	26	GND

13) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているときCMOSの値(BIOS設定、日付、および時刻情報などを維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がつたら、バッテリーを交換してください。CMOS値が正確に表示されなかつたり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS値を消去できます：

1. コンピュータのパワーをオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、破裂する恐れがあります。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側(+)とマイナス側(-)の方向に注意してください(プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

14) CLR CMOS (CMOSクリアジャンパ)

このジャンパを使用して、CMOS値をクリアしたり(日付情報とBIOS設定)、CMOS値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を消去するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。

オープン:Normal

ショート:CMOSのクリア



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください(Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第2章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

15) CI (シャーシ侵入ヘッダ)

このマザーボードには、シャーシカバーが取り外された場合に検出するシャーシ検出機能が搭載されています。この機能には、シャーシ侵入検出設計を施したシャーシが必要です。

ピン番号	定義
1	信号
2	GND

第2章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flashにより、ユーザーはオペレーティング システムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOSは、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。



- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします(必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。

(サンプル BIOS バージョン:GA-C1007UN F1)



BIOS セットアッププログラムのメインメニューで、矢印キーを押して項目間を移動し、<Enter>を押して確定するかまたはサブメニューに入ります。または、お使いのマウスで希望する項目を選択することができます。



- ・システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- ・本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

2-2 M.I.T.



表示内容については、BIOS バージョン、CPU ベースクロック、CPU 周波数、メモリ周波数、合計メモリサイズ、CPU 温度、Vcore、およびメモリ電圧に関する情報が表示されます。



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバーカロック設定を間違って設定して動作させると CPU、チップセット、またはメモリが損傷しこれらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤った BIOS 設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

▶ M.I.T.Current Status (M.I.T 現在のステータス)

このセクションには、CPU/メモリ周波数/パラメータに関する情報が載っています。

▶ Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)

⌚ CPU Clock Ratio

取り付けた CPU のクロック比を変更します。

⌚ CPU Frequency

現在作動している CPU 周波数を表示します。

▶ Advanced CPU Core Features (CPUの詳細設定)

⌚ CPU Clock Ratio, CPU Frequency

上の項目の設定は Advanced Frequency Settings メニューの同じ項目と同期しています。

⌚ CPU Core Enabled

CPUコアを手動で有効／無効にするかを決定できます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

⌚ CPU Enhanced Halt (C1E)

システム一時停止状態時の省電力機能である、Intel CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

- ☞ **C3/C6 State Support**
システムが停止状態になっているとき、CPU が C3/C6 モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3/C6 状態は、C1 より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **CPU Thermal Monitor**
CPU 過熱保護機能である Intel CPU Thermal Monitor 機能の有効 / 無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU が過熱すると、CPU コア周波数と電圧が下がります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **CPU EIST Function**
Enhanced Intel SpeedStep Technology (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU 負荷によっては、Intel EIST 技術は CPU 電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **System Memory Multiplier**
システムメモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Memory Frequency (MHz)**
最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。
- ▶ **Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)**
- ☞ **System Memory Multiplier, Memory Frequency(MHz)**
上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。
- ☞ **Performance Enhance**
システムは、異なる 3 つのパフォーマンス レベルで動作できるようになります。
 - ▶ Normal システムを基本のパフォーマンス レベルで動作させます。
 - ▶ Turbo 良好なパフォーマンス レベルでシステムを操作します。(既定値)
 - ▶ Extreme 最高のパフォーマンス レベルでシステムを操作します。
- ☞ **DRAM Timing Selectable**
Quick と **Expert** では、**Channel Interleaving**、**Rank Interleaving**、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション: **Auto** (既定値)、**Quick**、**Expert**。
- ☞ **Channel Interleaving**
メモリチャネルのインターリービングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** 化すると、システムはメモリのさまざまなチャネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Rank Interleaving**
メモリランクのインターリービングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** になると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ▶ **Channel A/B Timing Settings (チャネル A/B のタイミング設定)**
このサブメニューでは、メモリの各チャネルのメモリ タイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、**DRAM Timing Selectable** が **Quick** または **Expert** の場合のみ設定可能です。注: メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてください。
- ▶ **Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)**
このサブメニューにより、メモリー電圧を設定できます。
- ▶ **PC Health Status**
- ☞ **Reset Case Open Status**
 - ▶ **Disabled** 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
 - ▶ **Enabled** 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。

- ☞ **Case Open**
マザーボードの CI ヘッダに接続されたシャーシ侵入検出デバイスの検出状態を表示します。システムシャーシのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースへの侵入状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。
- ☞ **CPU Vcore/Dram Voltage/+5V/+12V/CPU VTT**
現在のシステム電圧を表示します。
- ☞ **CPU/System Temperature**
現在の CPU/システムの温度を表示します。
- ☞ **CPU/System FAN Speed**
現在の CPU/システムパワーファン速度を表示します。
- ☞ **System Fan Speed Control**
システムのファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - » Normal システムファンは、システム温度に応じて可変速で動作します。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - » Silent システムファンを低速度で作動します。
 - » Manual **Slope PWM** 項目の下で、システムファンの速度をコントロールします。
 - » Disabled システムファンを全速で作動します。
- ☞ **Slope PWM**
システムファン速度をコントロールします。**System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C

2-3 System (システム)



このセクションでは、マザーボード モデルおよび BIOS バージョンの情報を表示します。また、BIOS が使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

- ☞ **System Language**
BIOS が使用する既定の言語を選択します。
- ☞ **System Date**
システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。
- ☞ **System Time**
システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:0:0 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。
- ☞ **Access Level**
使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセス レベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では Administrator (管理者) として表示されます。) 管理者 レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することができます。ユーザー レベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。
- ▶ **ATA Port Information (ATA ポート情報)**
このセクションでは、Intel NM70 チップセットで制御された各 SATA ポートに接続されたデバイスの情報について記載します。各 SATA ポートを有効/無効にするか、またはホットプラグ機能を有効/無効にすることができます。

2-4 BIOS Features (BIOS の機能)



- ☞ **Boot Option Priorities**
使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。例えば、ハードドライブを優先度 1 (Boot Option #1) に設定し、DVD ROM ドライブを優先度 2 (Boot Option #2) に設定します。リストは、特定のタイプに対して最高の優先度が付いたデバイスのみを表示します。例えば、Hard Drive BBS Priorities サブメニューで優先度 1 と設定されたハードドライブのみがここに表示されます。
起動デバイスリストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージ デバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーテイショニングをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。
また、Windows 7 (64 ビット) など GPT パーテイショニングをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

- ☞ **Hard Drive/CD/DVD ROM Drive/Floppy Drive/Network Device BBS Priorities**
ハードドライブ、光ドライブ、フロッピーディスクドライブ、LAN 機能からの起動をサポートするデバイスなど特定のデバイスタイプの起動順序を指定します。このアイテムで <Enter> を押すと、接続された同タイプのデバイスを表すサブメニューに入ります。少なくともこのタイプのデバイスが 1 個インストールされている場合のみ、この項目が表示されます。
- ☞ **Bootup NumLock State**
POST 後にキーボードの数字キーパッドにある NumLock 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ☞ **Security Option**
パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Administrator Password/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。
 - » Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
 - » System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)
- ☞ **Full Screen LOGO Show**
システム起動時に、GIGABYTE ロゴの表示設定をします。Disabled にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値:Enabled)
- ☞ **Limit CPUID Maximum**
CPUID 最大値の制限設定を行います。Windows XP ではこのアイテムを Disabled に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムでは Enabled に設定します。(既定値:Disabled)
- ☞ **Execute Disable Bit**
Intel Execute Disable Bit (Intel メモリ保護) 機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、コンピュータの保護を拡張して、サポートするソフトウェアおよびシステムと一緒に使用することでウイルスの放出および悪意のあるバッファのオーバーフロー攻撃を減少させることができます。(既定値:Enabled)
- ☞ **Intel Virtualization Technology**
Intel Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。Intel 仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1 つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値:Disabled)
- ☞ **OS Type**
インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。Windows 8 ではこのアイテムを Windows 8 に設定します。(既定値:Other OS)
- ☞ **CSM Support**
従来の PC 起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。
 - » Always UEFI CSM を有効にします。(既定値)
 - » Never UEFI CSM を無効にし、UEFI BIOS 起動プロセスのみをサポートします。OS Type が Windows 8 または Windows 8 WHQL に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ☞ **Boot Mode Selection**
起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。
 - » UEFI and Legacy 従来のオプション ROM または UEFI のオプション ROM をサポートするオペレーティングシステムから起動できます。(既定値)
 - » Legacy Only 従来のオプション ROM のみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。
 - » UEFI Only UEFI のオプション ROM のみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。
- ☞ **CSM Support** が Always に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ☞ **LAN PXE Boot Option ROM**
LAN コントローラーの従来のオプション ROM を有効にすることができます。(既定値:Disabled)
CSM Support が Always に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

- ☞ **Storage Boot Option Control**
ストレージデバイスコントローラについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。
 - » Disabled オプションROMを無効にします。
 - » Legacy Only レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
 - » UEFI Only UEFIのオプションROMのみを有効にします。
 - » Legacy First レガシーのオプションROMを先に有効にします。
 - » UEFI First UEFIのオプションROMを先に有効にします。
- ☞ **CSM Support** が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ☞ **Other PCI Device ROM Priority**
LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスコントローラ以外のPCIデバイスコントローラについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。
 - » Legacy OpROM 従来のオプションROMのみを有効にします。
 - » UEFI OpROM UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
- ☞ **Network stack**
Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disable Link)
- ☞ **Ipv4 PXE Support**
IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。Network stack が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- ☞ **Ipv6 PXE Support**
IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。Network stack が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- ☞ **Administrator Password**
管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイブし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザー パスワード)を入力する必要があります。ユーザー パスワードと異なり、管理者パスワードではすべての BIOS 設定を変更することができます。
- ☞ **User Password**
ユーザー パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイブし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザー パスワード)を入力する必要があります。しかし、ユーザー パスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定の BIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

2-5 Peripherals (周辺機器)



☞ SATA Controller(s)

統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

☞ SATA Mode Selection

チップセットに統合されたSATAコントローラーをAHCIモードに構成するかどうかを決定します。

▶ IDE SATAコントローラーをIDEモードに構成します。

▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI)は、ストレージドライバがNCQ(ネイティブ・コマンド・キューイング)およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)

☞ USB2.0 Controller

統合されたUSB 2.0/1.1コントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

☞ Audio Controller

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。

☞ Init Display First

取り付けたPCIグラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

▶ Auto BIOSでの設定を自動的に構成します。(既定値)

▶ IGFX 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。

▶ PCI PCIスロットにあるグラフィックスカードを最初に処理するディスプレイカードとして設定します。

☞ Internal Graphics

オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Auto)

☞ Internal Graphics Memory Size

オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。オプション:32M~1024M。(既定値:64M)

☞ DVMT Total Memory Size

オンボードグラフィックスのDVMTメモリサイズを割り当することができます。オプション:128M, 256M, MAX。(既定値:MAX)

- ☞ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値:Enabled)
 - ☞ **EHCI Hand-off**
EHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの EHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値:Disabled)
 - ☞ **Port 60/64 Emulation**
入出力ポート 64h および 60h についてエミュレーションの有効/無効を切り替えます。MS-DOS または USB デバイスをネイティブでサポートしていないオペレーティングシステムで USB キーボードまたはマウスをフル レガシ サポートするにはこれを有効にします。(既定値:Disabled)
 - ☞ **USB Storage Devices**
接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。
 - ☞ **PATA Controller(JMicron JMB368 IDE コントローラー)①**
JMicron JMB368 した IDE コントローラーを有効または無効にします。この設定については、IDE コネクターに接続されたデバイス機器を認識します。(既定値:IDE Mode)
 - ☞ **OnBoard LAN Controller#1 (LAN1)**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製アドインネットワークカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。
 - ☞ **OnBoard LAN Controller#2 (LAN2)**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製アドインネットワークカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。
- ▶ **Super IO Configuration (スーパー I/O の構成)**
このセクションでは、スーパーI/Oチップ上の情報を提供し、シリアルポートとパラレルポートを設定します。
- ☞ **Serial Port A(バックパネルのシリアルポート)**
オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
 - ☞ **Serial Port B(オンボードCOMBコネクター)**
オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
 - ☞ **Parallel Port**
オンボードパラレルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
 - ☞ **Device Mode**
Parallel Port が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オンボード(LPT)ポート用のオペレーティングモードを選択します。オプション:Standard Parallel Port Mode (既定値)、EPP Mode (Enhanced Parallel Port)、ECP Mode (Extended Capabilities Port)、EPP Mode & ECP Mode。
- ▶ **Intel(R) Smart Connect Technology (Intel(R) Smart Connect テクノロジー)**
- ☞ **ISCT Configuration**
Intel Smart Connect Technology の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)

① GA-C1007UNのみ。

2-6 Power Management (電力管理)



⌚ Resume by Alarm

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値:Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

▶ Wake up day:ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。

▶ Wake up hour/minute/second:自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注:この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたはAC電源の取り外しを避けて下さい、そうしない場合設定が有効にならないことがあります。

⌚ ErP

S5(シャットダウン)状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値:Disabled)

注:このアイテムをEnabledに設定すると、次の機能が使用できなくなります。PMEイベントからの起動、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LANからの起動。

⌚ High Precision Event Timer (注)

Windows 8/7 の High Precision Event Timer (HPET) の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)

⌚ Soft-Off by PWR-BTTN

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は同時にオフになります。(既定値)

▶ Delay 4 Sec 電源ボタンを 4 秒間長押しすると、システムの電源がオフになります。パワー ボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

⌚ Internal Graphics Standby Mode

オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値:Enabled)

⌚ Internal Graphics Deep Standby Mode

オンボードグラフィックスをディープスタンバイモードに入れる設定をします。(既定値:Enabled)

⌚ AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。

▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。

▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままで。(既定値)

(注) Windows 8/7 オペレーティングシステムでのみサポートされます。

- ☞ **Power On By Keyboard**
PS/2 キーボードからの入力によりシステムの電源をオンにすることが可能です。
注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。
 - » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - » Password 1~5 文字でシステムをオプスするためのパスワードを設定します。
 - » Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。
 - » Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。
- ☞ **Power On Password**
Power On By Keyboard が Password に設定されているとき、パスワードを設定します。
このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。
注:パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。
- ☞ **Power On By Mouse**
PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。
注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。
 - » Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - » Move マウスを移動させてシステムの電源をオンにします。
 - » Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

2-7 Save & Exit (保存して終了)



- ☞ **Save & Exit Setup**
この項目で <Enter> を押し、Yes を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。No を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- ☞ **Exit Without Saving**
この項目で <Enter> を押し、Yes を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。No を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- ☞ **Load Optimized Defaults**
この項目で <Enter> を押し、Yes を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。

- ☞ **Boot Override**
直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで<Enter>を押し、**Yes**を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。
- ☞ **Save Profiles**
この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1 ~ セットアッププロファイル 8 として保存することができます。<Enter>を押して終了します。または**Select File in HDD/USB/FDD**を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。
- ☞ **Load Profiles**
システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter>を押して完了します。**Select File in HDD/USB/FDD**を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定(最後の既知の良好コード)に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第3章 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。ドライバの自動実行画面は、以下のスクリーンショットのように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行画面が自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Install All** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が推奨されたすべてのドライブをインストールします。または、**Install Single Items** をインストールしてインストールするドライバを手動で選択します。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとします。しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに対する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS(電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE(廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品には有害物質(Cd, Pb, Hg, Cr+6, PBDE, PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にある場合は梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- ◆ 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- ◆ 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装(運送用コンテナを含む)をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。

- 30 -

- 31 -



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス : No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL:+886-2-8912-4000、ファックス +886-2-8912-4003

技術および非技術。サポート (販売 / マーケティング) : <http://ggts.gigabyte.com.tw>

WEB アドレス (英語) : <http://www.gigabyte.com>

WEB アドレス (中国語) : <http://www.gigabyte.tw>

GIGABYTE Web サイトにアクセスし、Web サイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

• GIGABYTEグローバルサービスシステム



技術的または技術的でない(販売/マーケティング)質問を送信するには:
<http://ggts.gigabyte.com.tw>
にアクセスし、言語を選択してシステムに入つてください。